



< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 よい子の広場福祉会	事業所名	看護小規模多機能 書写ひまわりホーム
所在地	(〒 671-2201) 姫路市書写 634-50		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

まだまだ実績は少ないですが、積極的に医療ニーズの高い利用者様を受け入れ、地域に根差した施設づくりを目指しています。
今年度はコロナの影響で、入院すると家族と会えずに最期を迎えられることが多い中、自宅、施設での看取りを家族も共にお手伝いが当たり前に出ることで看多機の役割と意義を再認識できました。より専門的知識を得て、看護と介護が協働で高め合いながらチーム一丸で取り組みます。
また、保育園や法人学童、特養・障害者施設が敷地内にあり、あらゆる年齢層との交流が自然と行われています。そのような恵まれた環境の中で在宅生活を支えるプロとして、その人に合った支え方を柔軟に考え、介護・医療を一体的に提供する事でより質の高いサービスで在宅療養を支えます。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2021 年 3 月 5 日	従業者等自己評価 実施人数	(13) 人	※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2021 年 3 月 17 日	出席人数 (合計)	(9) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (3 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (〃 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (1 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (〃 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (2 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (1 人) <input type="checkbox"/> その他 (1 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	毎月の会議に、基本理念からスタートし、一人ひとりの意識向上に働きかける。(介護・看護のプロ)	事業計画の作成時から、職員の声を反映し、方向性が統一出来るように、意識向上できるようにした。会議時では必ず今を振り返る機会を作った。	意識は高められてはいるが、基本理念の浸透も必要。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	研修を毎回テーマに沿って行う。利用者の状態に応じた勉強会を逃さず行う。	今回の、職員一人ひとりが勉強会の資料作りから講師まで行うことで、意識改革も含め、学び合える機会となった。現状に満足せず、更に一人ひとりのスキルアップを目指す。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	主治医との関係を構築し、家族にも安心して在宅生活の支援ができるよう、体制を作る。いつでも相談できる関係も多機関・多職種と築けるようこちらからの発信を大切にしたい。	24時間体制を整備できた。看護師の中でレベルの差が明確化してきている。どの看護師でも対応が行えるよう看護師間の連絡や学びの場面も必要と感じる。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	24時間、どんな状況でも対応できる関係と体制を作る。 地域の行事等に参加し、日ごろから信頼される関係を作っていく。	看取り等や緊急時の対応については、何かあれば、自宅に看護師が駆け付け、24時間緊急時に対応できる体制が構築できた。 コロナの影響で、交流など規制される場面が多かったが、工夫は最大限行った。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	病院等と連絡を密にとり、信頼される事業所を目指す。地域連携会議や医療関係の研修会にも積極的に参加する。	病院・居宅・医師会・地域包括研修等に出向き、事業所を知ってもらうよう努めた。	まだまだ、医療ニーズの高い方の受け入れが少ない。実績を積み、病院等と連絡を密にとり、信頼される事業所を目指す。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	意識は高められてはいるが、基本理念の浸透も必要。	毎月の会議や申し送り時に、基本理念からスタートし、一人ひとりの意識向上に働きかける。看多機の役割を確認する機会を作る。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	今回、職員一人ひとりが勉強会の資料作りから講師まで行うことで、意識改革も含め、学び合える機会となった。 現状に満足せず、更に一人ひとりのスキルアップを目指す。	研修を毎回テーマに沿って行うことは継続。テーマをより専門性を高められるものにする。 一緒に勉強会や事例検討会の機会を持ち、相互理解の促進に努める。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	24時間体制を整備できた。看護師の中でレベルの差が明確化してきている。どの看護師でも対応が行えるよう看護師間の連絡や学びの場面も必要と感じる。	どの看護師、介護士でも同じように対応できるまでレベルアップを図る。医療ニーズの高い方の受け入れに対応できる勉強会を実施する。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	医療ニーズの高い方を積極的に受け入れる。在宅での看取りについて、意識が高められつつある。	コロナ禍の中で交流は難しいが、工夫しながら新たな関わりを見出す。またコロナの為、病院では最期に家族と会えない事が多い中、看多機では家族と住み慣れた地域で当たり前最期を迎えられるという強みを発信していく。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	まだまだ、医療ニーズの高い方の受け入れが少ない。病院等と連絡を密にとり、信頼される事業所を目指す。	看多機の強みを発信しながら、看護師・介護士の知識を高める環境を整備する。	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		10	3		看多機の本来の役割や意義についてようやく理解されつつあるのではないかと考える。 誰がスタッフに入っても、わかるようにすることも必要ではないかと考える。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		10	3		異動が多い為、新しく入った人にもきちんと理解してもらえらるようすべき。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	1	9	3		講師になることで、自ら考え実践する意識が高められたと感じる。より専門性と特化した研修を育成計画に盛り込み取り組んでほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	1	9	3		引き続き、現状に甘んじず質の高いスタッフを目指して取り組んでほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	3	9	1		できていない人に対し、どう徹底するか考えて、早期に対処をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		9	4		<p>コロナ禍で制限が多くあったと思う。ご苦勞が伝わる。今後、このような中でどう地域と関わっていくか課題である。</p>	<p>✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します</p>
		<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u> 2か月に1回、運営推進会議を開催している。今回はコロナの為、色々な形で助言を頂ける場を工夫せざるを得なかったが、事業所自体が閉ざされたものでなく、開かれたものになるよう、事故等の報告や対策を伝え、助言等をいただく機会を作った。</p>					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	2	9	2		<p>人事異動はあるものの、職員が退職せずに働くのがいい。</p>	<p>✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</p>
		<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u> 職員が安心して働ける環境、相談や悩みが話せる機会を作り、精神的な負担がかからないよう努めている。業務の内容の改善や提案を取り入れ、改善に努めている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	3	9	1		継続し、更に工夫し取り組んで頂きたい。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 統一できていない部分の指摘など反省を活かし、職員間でのコミュニケーションの必要性や申し送りノートの意味のある活用を大切に取り組んできた。 昼礼では気になることを迅速に解決できるように時間を使っている。					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	3	9	1		事故に対し、未然に防ぐ努力をすることは必要。日頃から利用者・家族との信頼関係を構築することが何よりも大切である。また、説明と同意書をとっておくことも必要ではないか。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 事故防止委員会の委員長を中心に、事故が起こる前に未然に防ぐために対策を講じている。また、事故報告書や対策書などを活用し、事故に対しての分析、対策を考え、再発予防に努めている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		10	3		いざという時に本当に動けるかどうか問われる。本当に利用者の命を守れるのか。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	2	10	1		24時間365日を支えることは難しく大変だと思うが、看護と介護が力を合わせ、より高品質なサービスを提供してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	3	9	1		看専門性の違いもあるが、看護と介護が共に学び、高められるようにすることが大切。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	1	9	3		利用者・家族の思いの相違があった場合など、どう調整するか難しいと思うが、サービスありきになり、家族の介護力を奪わぬように。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		10	3		介護と看護の一体化を図ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	1	9	3		細やかな気づき等、早めに発信することが大切である。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
[具体的な状況・取組内容] 医師と早期発見はもちろん、状況の変化等に敏感に捉えながら対応している。が一方では医療ニーズの少ない方に対しては、介護と看護の一体化とはいかない面もあり。							
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	1	9	3		ケアマネジメント力や計画作成者力など、新たな課題に真摯に取り組んで頂きたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
[具体的な状況・取組内容] 毎月の会議で様々な角度からアセスメントを行っている。計画により細やかに反映することが求められる。							
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	1	9	3		家族との関係が良好で信頼関係も築かれていると思うが、家族等の思いだけでサービスを提供しないように利用者の声に耳を傾け取り組んで頂きたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握
[具体的な状況・取組内容] 利用については、登録者によって偏りも生じている。在宅生活の継続を目指す必要がある。生活状況把握に対しては、訪問や送迎時に、介護士・看護師関係な							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足 するためにも重要です
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		く情報収集を意識し取り組んでいるが、 まだまだ情報を得なくてはならない。					
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	2	10	1		今後もさらに連携を図り、サービス内容の充実に努めてもらいたい。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 主治医との関係も構築しようと努力しており、何かあれば連絡・相談できる関係作りが以前よりもできている。					
(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	2	9	2		専門性を活かしながら、協働で今後も取り組むことを期待する。	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
		[具体的な状況・取組内容] 利用者の変化や処置、受診等は看護師から家族にわかりやすく説明やアドバイスを行い、早期発見、対応に努めている。それを介護士が日常生活の中で気をつけながら行い、経過状況を報告し、細やかな変化を伝えあうことで連携を図っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	2	10	1		チームとして様々な角度から取り組むことが望ましい。	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 昼礼や申し送り等で気づいたことは、互いに発信できる体制である。					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	6	6	1		看護師がいるという強みを発揮してほしい。	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 看護師のレベルの差はあるものの、疾病の予後予測等を含め、様々な提案が随時ある。相談にも対応が早い。					
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		13			理解できる、できないではなく、一人ひとりと向き合っ て対応する姿勢が大事ではないか。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 家族の理解は得ており、大きな苦情等もない。利用者の中には、サービス内容が理解できないこともあるが、その都度時間をとって説明する機会を作っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		12	1		日頃からの利用者・家族との関係性が求められる。今後も努力してほしい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 理解までは至っていないかもしれないが、一人ひとりに時間をとり、個別に対応している。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		10	3		最新の医療処置や医療機器は目覚ましい。事業所としてもアンテナをはり、何事も学ぶ必要がある上に、看護師同士のレベルの差もなくしてほしい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 看護師や経験豊かな職員を中心に、アドバイスをしたり、相談にのったりできているが、そこまでの医療機器を扱う人はいないが、できるように準備は必要。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	6	6	1		コロナで会えずに最期を迎える中、看多機の強みとして発信してほしい。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 看取りを行った本人はもちろんのこと、家族の意向や相談にその都度聞きながら取り組めるよう、日頃から信頼関係を構築できるよう努めている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	2	10	1		先を見越して対応できる柔軟な対応を今後も期待。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		【具体的な状況・取組内容】 利用開始時だけでなく利用開始後も、家族の環境等に配して、今後を考えながら相談していただける関係を築いている。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している。	2	10	1		24 時間体制を更に強化し取り組んでほしい。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		【具体的な状況・取組内容】 看護師と主治医を中心に意向に沿ってその都度、意向確認を行っている。記録を誰にでもわかるように整備する必要あり。					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	7	5	1		コロナ禍の状況で、どう連携をしていくかが今後の課題。	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
		【具体的な状況・取組内容】 地域連携室や家族と連絡を密に取り合い、在宅復帰をスムーズかつ、早くに行えたが、入院中はコロナの為、情報共有が難しかった。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		12	1		どの看護師も対応できるか 看護師同士のレベルアップも 必要ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 指示書のある方を中心に、緊急時の対応等は主治医と相談できている。指示書のない方も相談にのったり、薬の管理を行い柔軟な対応を発信している。					
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		12	1		看護師だけでなく、介護士も理解できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 協力病院は確保している。また、あらかじめ必要とされる緊急時の体制は、主治医や病院とその都度確認している。					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	2	9	3		どんなことでも地域包括に連絡をしてもらえれば、一緒に考え、力になります。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 地域でどんな問題があるか自治会長に必要な情報を聞いたり、または地域で見守り強化の依頼をお願いしたり、相談できるよう、地域包括の力借りながら行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		7	6		何事においても、情報共有を徹底するために、どうするかは事業所の工夫がいる。夜勤等、皆が揃いにくい部署だからこそより考えて取り組んでほしい。 改善を要す。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ファイルにはしてあり、誰でも見られる環境にあるが、迅速な情報発信とまではいかない。何かあれば、会議や日々の申し送り等で伝えている。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		6	7		コロナで予期せぬことが多かったが、工夫をしながら取り組んでほしい。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		[具体的な状況・取組内容] 今年度はコロナの影響で地域への積極的な活動は自粛せざるを得なかったが、ひまわり日記などの広報誌を施設以外でも配布し地域に知って頂けるよう努めた。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している						<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		9	4		<p>研修に参加し、どの介護職員でも対応できることを早期に望む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			13		積極的に受け入れて様々なケースに柔軟に対応していただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容] 常時24時間体制とまではいかないが、必要に応じて、積極的に受け入れる姿勢はある。</p>					
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	3	10			今後も積極的に受け入れて様々なケースに柔軟に対応していただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容] 実績こそまだ少ないが、看取りができる体制である。</p>					
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		6	7		介護保険制度や社会福祉法など、今後の動向にアンテナをはり、精通していないといけない。地域包括ケアシステムはよく聞かすが、知らないことが多い。学ぶ機会があつ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます
		<p>[具体的な状況・取組内容] 地域包括ケアシステムについて、サービス内容を考え、根拠等を話す機会を作っているが、職員一人ひとりにまで理解しているとはいえない。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	13				地域包括支援センターとしては、住み慣れた地域の施設で訪問・訪看を柔軟に利用しながら、在宅生活を送って頂きたいという希望はある。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		10	3		課題提起をすることで、地域も共に成長できると考える。率先して活動して頂きたい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待され

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		9	5		コツコツと積み重ねて継続してほしい。	<p>ます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>全体ではないが、個々の家族に応じてベッドから車椅子等の移乗介助の仕方について、福祉用具の活用や方法を伝える機会を設け、安心して在宅生活ができるよう働きかけた。またパットの見直しや紙パンから布パンツへの変更など、その方に合ったパットの大きさ等働きかけている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている	ほぼ全員に、早期に達成されるよう努力して頂きたい。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている。	介護に医療面でのサポートほど心強いものはない。期待する。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成さ	実績としては少ないが、今後更に受け入れしていた	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>れている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <hr/> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p>	<p>だきたい。</p>	<p>提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>